

9月23日

八幡平で

草紅葉

を見てきたよ!

稜雲荘の前に広がる草紅葉の草原。夏はコバイケイソウのお花畑です。  
草原の中に見える黒い種はコバイケイソウの種。



金色



草紅葉を見るときは  
風が吹いて行く方(風下)  
を見るのがポイント。  
なびいた草がより鮮やかな  
金色に見えます。

日射しのある日の方が  
上の写真のように  
草がキラキラ輝いて  
きれいです☆

みんな風下に向かって  
写真を撮っているよ!



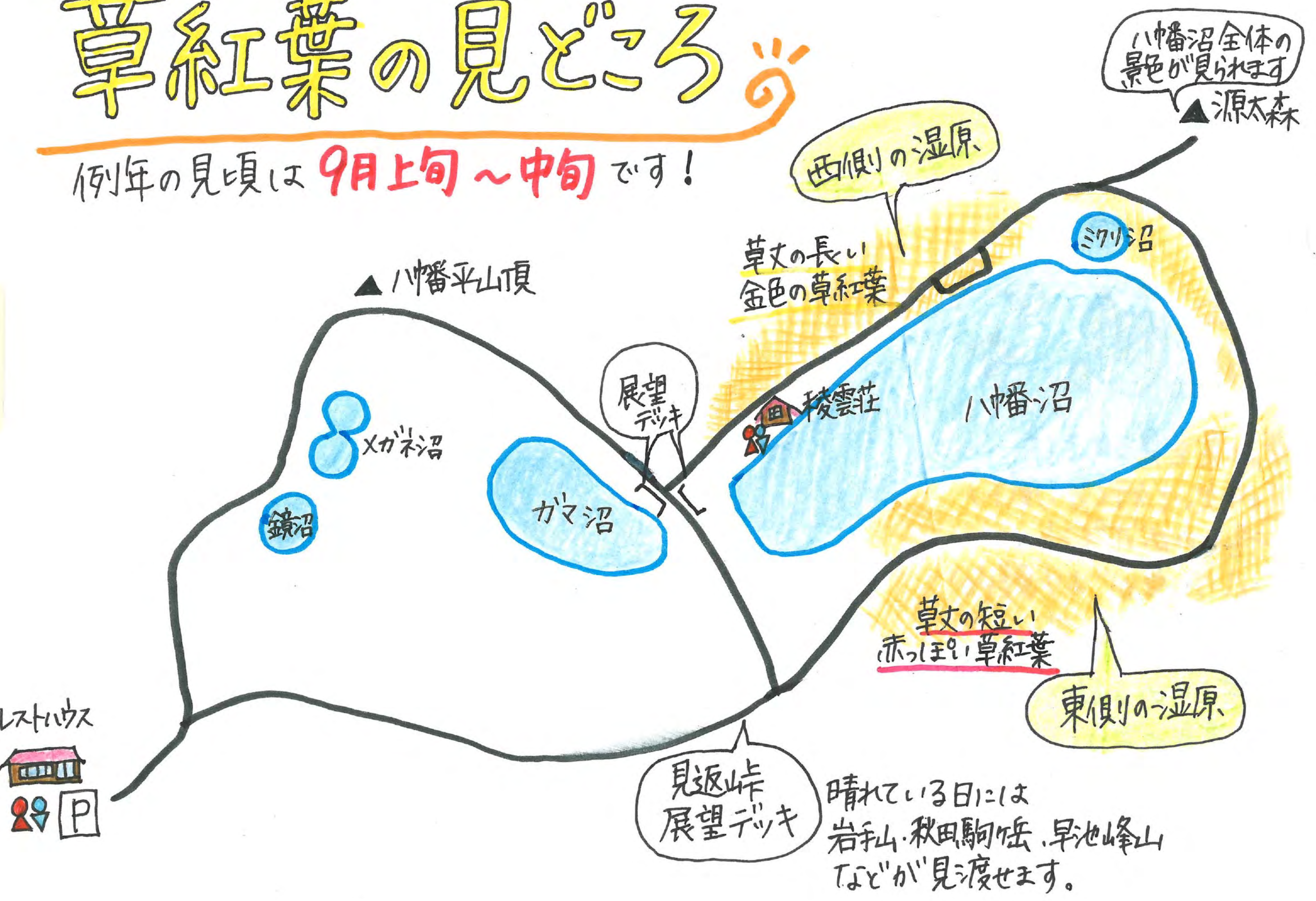


ハ幡沼 東側からの景色。池塘に映る青空がきれい☆☆



# 草紅葉の見どころ

例年の見頃は **9月上旬~中旬** です!





# 八幡沼の伝説

昔むかし大干ばつのあった年、栗石の豪商の主が山道で赤子を拾いました。

こんな山の中に誰が捨てていったものかわいそうに思った主は赤子を家に連れ帰り、自分の子ども達と一糸者に大切に育てました。

赤子はやがて美しい娘に成長し、15歳になりました。

その年は雨が降らず、村人も商人も困り果てておりました。

ある日、娘が言いました。「父上、母上、私は山の上にある大きな湖の夢を見ました。

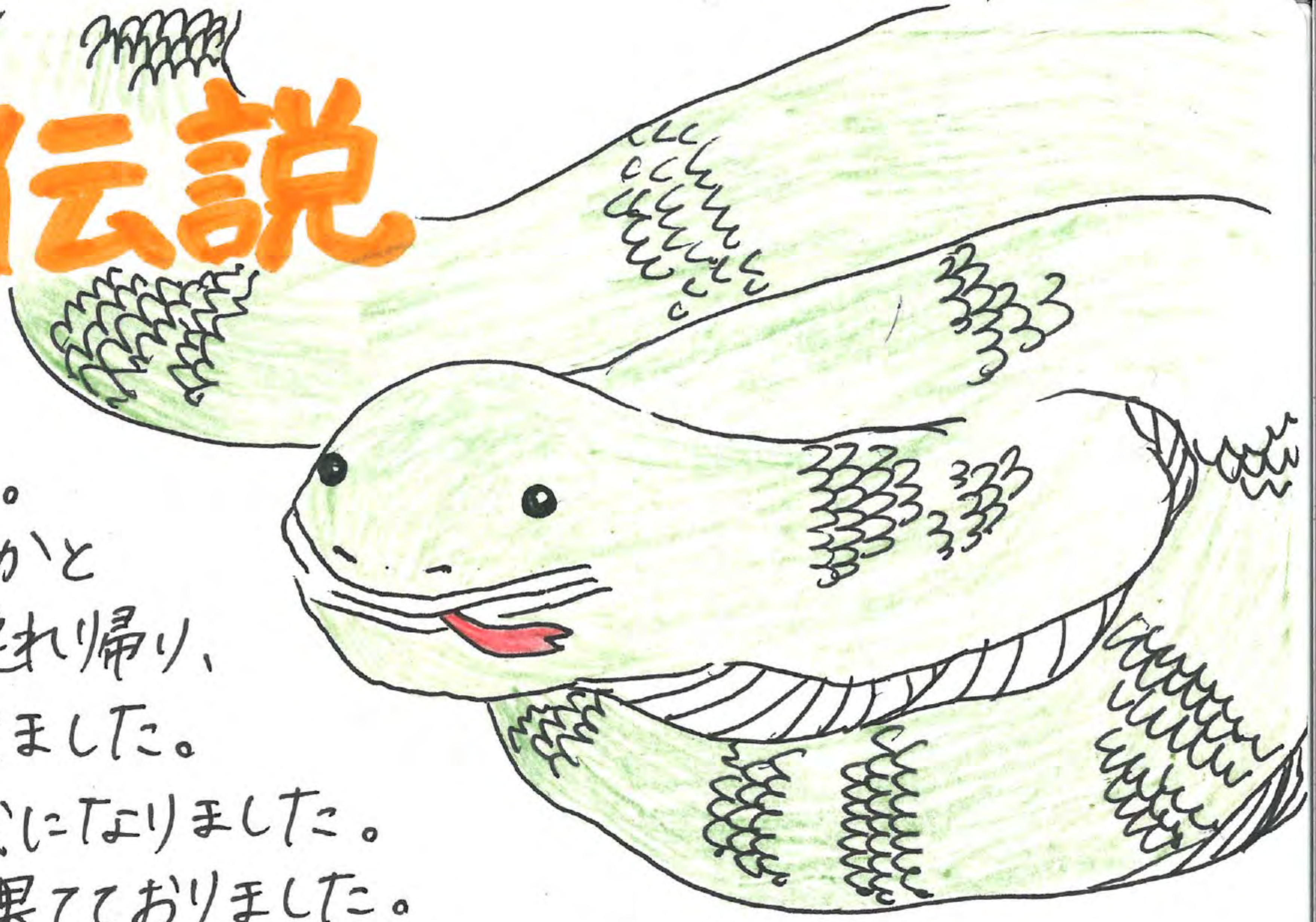
私はどうしてもその湖へ行かなければなりません。」心配する両親でしたが、あまりに

せがまので、供の着を付けて娘を湖へ行かせることにしました。湖に着くと、娘は導かれるように、干上がった湖の真中へと進んで行きます。湖底の岩穴まで歩を進めたところ、娘の姿はたちまち大蛇に変わりました。腰を抜かす従者に娘は言いました。

「小布がらなくてよい。私はこの湖を守る大蛇神です。干ばつの折父上に助けられ、今日まで人の姿で育ててもらいました。これからはここで雨を降らせ、里を守ります。」蛇の姿になった娘が涙をこぼすと、あたりに雨雲が湧き、湖はみるみる満たされました。

里にも恵みの雨が降り、干ばつに悩まされることもなくなりました。

めでたしめでたし。





# ◀ 草紅葉の中の ち 池塘

池塘はずっと昔、大きな池だった所に湿原の草がたまって陸になり、その間が水たまりのように残った部分。

青空や雲を鏡のように映してとてもきれいです。

遠くから眺めると、オレンジ色の野原ですが、近くでよく見てみると1本1本はとても細い草の集まりです。場所によって、草紅葉を構成する植物の種類が違っているので、色合いも微妙に変化します。

いっせ沼東側は草丈の短い湿原。全体的に赤色をしています。



アオモリアザミ  
今年さいごの一輪。



▼ ヤマハハコ



▼ オオカメノキの実



▲ アオハツガザクラ  
(本来は7月上旬に  
咲きます)

▼ シロバナトウチソウ



▼ ナナカマドの実



▲ 八幡沼の西側。草丈が長い草が多く、風になびく金色の草紅葉がきれいです ♪



# 源太森に登ってみた。

八幡沼からちょっとだけ足を延ばすと山高い丘のような源太森(1595m)があります。全体的に平らな八幡平では、八幡平山頂(1613m)・茶臼岳(1578m)と並んで「八幡平三大眺望」と呼ばれています。ただの小高い丘のようですが、火山です。実は、八幡沼や周辺の沼も全て昔は噴火口でした。一番大きな八幡沼は深さが22m、噴火口が5~7個くっついていると考えられています。噴火口は八幡平周辺から岩手山まで点々と続いており、登山道から外れた森の中にも点在しています。



▲源太森山頂から望む八幡沼。茶色く見える所が草紅葉の湿原です。

## <今日のコースタイム>

レストハウス駐車場(9:30) → 鏡沼(9:47) → メガネ沼(9:53) → 八幡平山頂(10:08)  
→ 八幡沼・ガマ沼展望台(10:19) → 稜雲荘(10:27) → 休憩 → 稜雲荘出発(10:40)  
→ 八幡沼西側湿原(10:48) → 源太森(11:10) → ミクリ沼(11:24) →  
八幡沼東側湿原(11:30) → 見返峠(11:50) → レストハウス駐車場(12:00)



# 草紅葉を近くで見ると...



手前に写ってる穂は  
ムツノガリヤス(陸奥野刈安)  
というイネ科植物です。  
草紅葉のほとんどは  
この植物の紅葉です。  
ほかにも、様々なイネ科  
植物やイグサの仲間、  
下の写真のような植物が  
みんな草紅葉を  
作っています。



チングルマの葉っぱは  
チングルマはバラの仲間の樹木です。  
花もかわいいけど、真赤に紅葉した葉っぱもきれい!



シロバ  
トウチソウの  
葉っぱ

エゾオヤマリンドウも  
そろそろ終わり。  
処々にまだ紫色の  
お花が残っていました。





# アモリドマツ (青森榎松)

正式名称はオオシラビソ(大白檜曾)といいます。個人的には「アモリドマツ」という呼び方が好きです。ちなみに諸般岳(もろびだけ)の「言者松」も秋田の方言でアモリドマツのことだそうです。日本の固有種で、中部地方以北の高山にしかなく、北限は青森県の八甲田山です。八甲田平・八甲田地域にこの樹が進出したのはわずか600年前、最古の吾妻山(福島・山形)周辺でも2500年前と考えられています。

実が付くあたりの葉っぱはタワシのように硬くて、触ると痛いぐらいです。



この樹の高さは2mくらい。幹は10cmくらいです。アモリドマツの樹命は100年~130年くらいといわれ、実を付けるには少なくとも30年かかります。この木は小さいけど、実がなっているので、30年以上生きていることがわかります。

下の方の葉っぱはやわらかくて握ることができます

## へしへししてみて!

アモリドマツの葉っぱを少し強めにたたいて手の平の香りをかぐと、青みかんのような香りがします。これはチトニッドという成分で、リラックス効果があるといわれています。元々は、針葉樹が傷ついた時、傷口から細菌などが侵入するのを防ぐために出しているものです。



## 5月上旬まで雪に埋まっています

雪の深さは3m~4m



「細胞凍結」といって、細胞内の水分をどんどん外に出して細胞内をドロドロの液体にすることで凍りにくくしているんだよ!

4月20日頃になると道路が開通して山頂を歩けるようになります。するとびっくり! アモリドマツの森が消えてる~!! 実はまだ殆ど雪の中に埋まれています。厳冬期にはマイナス30℃以下まで気温が下がります。アモリドマツは雪に埋もれることで凍結から身を守っています。